

君はサブソングなんか聴かない

株式会社北海道日立システムズ
プラットフォーム・フィールドサービス事業部
フィールドサービス本部
フィールドサービス第2部 北見SC

村 田 貴 行

足跡がつかなくなった春先、おぼつかない
野鳥の鳴き声が聞こえてくる。

一生懸命さに、つい足を止めた。

鳥は、いきなりきれいに鳴けない。

「サブソング」と呼ばれる、つぶやくよう
な不完全な鳴き方を繰り返しながら、少しづ
つ覚えていくらしい。

若鳥だけではなく、成鳥も調子はずれな
「ぐぜり鳴き」から始まるそうだ。

そんなことを考えながら足早に会社に向か
う途中、王冠マークがついた小豆色の車が
あった。

窓には「〇〇桃李」と書かれたステッカー。
俳優か…通り過ぎた。

仕事ではサブソングは歌えないと思っている。

もちろん、本当に歌うわけではない。

言葉を追うだけで、精一杯になる。

会話の速度についていけず、うなづきだけ
が先に出る。

「分かった？」の一言が、何故か怖い。

平然を重ね着しなくては、と思った。

仕事におけるサブソングは、失敗ではなく、
身につくまでの途中経過なのだと思う。

苦手な仕事は、せめて及第点を取れるよう
にマニュアルどおりにやってみる。

濃過ぎるコーヒーが飲み干せない。

ある日、サーバーの障害対応を担当するこ
とになった。

資料が点在していて、迷子になる。

これすらできないのか…やっぱり苦手だ。

同僚に連絡をした。

手順や注意点、過去の経験を教えてもらう。

電話を切ったあと、深く息を吸えた。

現場に立つ。

思考停止したら…失敗したら…そう思うと
怖かった。

その怖さは、「どうでもいい」と思ってい
ない証拠であってほしい。

空気が薄く感じる。指先は冷たい。

メモした手順が、急に他人の字に見えた。

HDDのランプと甲高い冷却ファンの音に
舌打ちしそうになる。

やるか。

ラック特定ヨシ。

機器特定ヨシ。

交換対象部品特定ヨシ。

ランプがオレンジからグリーンに変わった。

ただ、それだけのこと。

すり減った靴は無口で、何も伝えてくれない。

埃だけが、靴底に残った。

誰が褒めるわけでもない。仕事だからね。

帰り道、鼻歌が漏れた。

野鳥のサブソングは、もう聞こえない。

あの車に書いてあったのは「桜梅桃李」だっ
た。